野木小学校同窓会報

第　25　号
平成27年1月
野木小学校同窓会編集部

大切なふるさと

第53回卒（昭和37年）
同窓会長（杉山）　竹村助雅

野木小学校同窓会の皆様には、益々お元気で各地、各方面でご活躍のこととお慶び申し上げます。器でもない者が同窓会長という大役を仰せつかりましたが、今年もあっという間に一年が過ぎ去ってしまいました。

さて、四月に同窓会長として入学式に出席させていただき、新入生の姿を拝見しました。とても初々しく目を輝かせていたのが印象的でした。しかし、わずか二ヶ月後の体育大会での姿を見て、何と成長するスピードが速いものかと驚きました。かけっこやいろんな競技に一生懸命体を動かしている姿や整列して話を聞く姿に、先生方の日々の指導やご家族の愛情を肌で感じました。わずか数ヶ月前まで保育所の園児であったのが信じられないくらいでした。

私の家には子どもや近くに孫がいないので寂しい限りですが、登下校の途中の挨拶に心が洗われるように感じます。私も「おはようさん。いってらっしゃい。」「おかえりなさい。」と声を掛けていきたいと思っています。振り返れば私も小学生の時に集落の大人やお年寄りの方々から声を掛けていただいたり、いろんなことを教えてもらったりしたことを思い出します。核家族化による個人主義がはびこる時代と言われていますが、野木地区にはまだまだ昔からのよい伝統や習慣が続いていることに喜びを感じています。今後もこのような素晴らしい野木小学校であって欲しいと切に念じています。

今年度、藤田嘉昭元同窓会長様が急逝されましたこと、心よりお悔やみを申し上げます。まだまだ教えていただきたいことありましたが残念でたまりません。

最後になりましたが、会員の皆様がご健康で大いに活躍されることをお祈りいたします。

縄文人と津波

野木小学校長　服部成男

縄文人は津波が来ることを知っていたのではないか。

昨年、宮城県の東松島に訪れる機会があった。そこの奥松島縄文村歴史資料館の館長さんからお話を伺った。

東松島の縄文人は海に近い半島や島に住んでいた。縄文人が住んでいた縄文博物館周辺は海に近いけれど、ちょうど内湾でほとんど津波の影響をうけない所に位置していた。

館長さんによると縄文人は津波を受けないことをあらかじめ知っていたのではないかということだった。

大津波は四百年から千年の間隔で起こっている。このような長い年月をどうやって伝えてきたのか不思議である。きっと多くの犠牲の上で住むべき場所を探り当ててきたのではないだろうかと思われた。

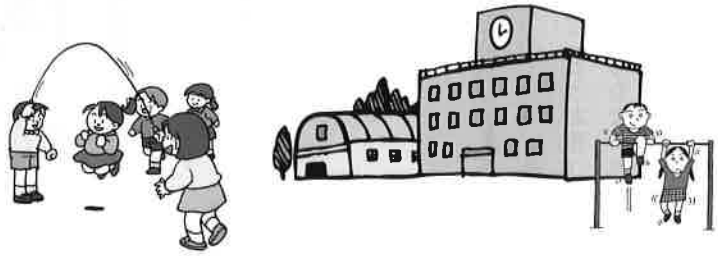
三方縄文博物館の名誉館長である梅原猛さんのお話の中に「草木国土悉皆成仏（そうもくこくどしっかいじょうぶつ）」という言葉が盛んにでてくる。「すべての自然の中に神がいる。」ことだそうだ。

縄文人は自然を神として敬い、自然と共に生き、自然から多くのことを学んできたのではないか。若狭町の鳥浜周辺にも縄文人たちが住んでいた。それも、一万年という長い時代に自然と共存して生き続けてきた。二〇年間を一世代とすると、五〇〇世代も繰り返し、繰り返し生活が営まれていたことになる。

どうしてこれほどまでに長い時代を生き続けて来られたのか。

はたして我々現代人はこれから先一万年も生き続けるこ

とができるのだろうか。そして、生き続けるために私たちは今何をなすべきなのかを野木の子どもたちといっしょに考えていかなくてはいけないと感じた。



旧職員からの便り

野木小学校での七年間

（平成7年度～13年度　職員）

田中和也

このたび野木小学校の同窓会報に寄稿する機会を頂戴し、当時を懐かしく思い出しています。私は、野木小学校に七年間教員として勤務し、その間、五年生や六年生の担任をさせて頂いておりました。

【エピソード1】

PTAの学級委員をされていた方から、親子で白山登山へ行こうというお話がありました。野木小では初めての試みで多少不安がありましたが、熱意に押されて実行しました。平成八年八月九日・十日に六年生親子で白山登山。厳しい行程でしたが、室堂での満天の星空と頂上での美しい御来光が今も心に焼き付いています。当時の保護者の皆様の団結力で実現した活動でした。やはり、感動体験を共有することは大切だと改めて感じています。

2001　修学旅行　於 奈良公園

【エピソード2】

学校の授業に初めてパソコンが導入されたのもこの頃でした。三階の一番奥にある図書室。その隣は教材室でした。倉庫のようになっていた部屋を整理してパソコン室に改良しました。現在では図書室と繋がりメディアルームとして活用されています。当時の卒業生が、現在では当たり前のようになっているパソコン等を使用した初めての卒業生です。

【エピソード3】

野木小学校の周辺はとても豊かな自然に恵まれています。子ども達に教えられて武生の不動の滝へ行ったり、さらに林道を上がり地層の見学をしたりしたことを覚えています。また、理科で川の流れを学習するときは、北川まで出かけて行き、川の流れを体験していました。クラブ活動で「釣りクラブ」を作り学校の前の川で夕方まで魚釣りを楽しんでいたことも思い出されます。教室だけでなく、地域全体が素晴らしい教育の場であったと思っています。

温かい野木地区の皆様と共に過ごせた七年間は、私の教員生活でもとても印象深く残っています。校区は違いますが、自宅から最も近いのが野木小学校なのです。保護者には同級生もたくさんいましたし・・・

菊薫る秋の日に、当時のことを懐かしみながら拙文を書かせていただきました。

旧職員からの便り

ふるさと野木

（昭和63年度～平成5年度　職員）

中村美樹

「上田先生！」――そう声をかけられて、そういえばそんな時もあった…と思い出し、私は野木の地でのできごとに思いをめぐらせた。

私は二十ン年前初めて教壇に立った。その地が野木。野木小学校三年生の担任だ。「上田先生」なんて自分自身ですら忘れかけていた旧姓の響きをとても懐かしく思い出した。私の教員人生のはじまりは野木小学校からだった。そして、その時、私を迎えかわいがってくださった当時の教育長さんは、故福田善正先生だ。ご存知のとおり武生の方。

初めて教壇に立った約七か月後、私は初めて（？）結婚した。小浜に嫁いだのだが、そのお隣の奥さんは杉山出身の方。

その次の年、長男を出産。初めてできた我が子の同級生のお母さんは、兼田の方。

こうやって、私の多くの「はじめて」が野木の地で、野木の方たちとの関わりの中で生まれてきたのだ。

「私のふるさとは野木です」

若狭の地に移り住んで人生の半分を過ごした今、そう言いたい自分がここにいる。

「自分の生まれ育ったところより、故郷のような気がしてしまうところがある」という言葉をどこかで読んだことがあるが、私の野木に対する気持ちはまさにこれだ。

広い校庭、白い校舎。その中にあふれる子どもたちの笑顔。決して毎日笑ってばかりいたわけではないが、思い出される情景は笑顔ばかり。地域の方の温かい人柄、落ち着いた雰囲気、穏やかな毎日。野木小学校には、六年間在籍させていただいたが、野木の子どもたちも地域の方々も、まだまだ未熟で経験の少ない私を、一人の仲間として受け入れてくださり、たくさんの楽しい会話をさせていただいたように思う。そんなにいいことばかり？と言われそうだが、「野木」という言葉は、とても心地よいイメージで私の心の中に響いている。

うさぎ追いしかの山
小ぶな釣りしかの川
夢は今もめぐりて
わすれがたき故郷

という「ふるさと」という歌があるが、この歌を歌ったり聞いたりして想うのは、生まれ故郷ではなく、野木の地であることにふと気づいた。

野木は、私のもうひとつのふるさとだ！―そう思わせてください。

会員からの便り

懐かしき野木小学校

第50回卒（昭和34年）
あわら市　竹村長佑

この原稿を書くにあたり振り返ってみると、故郷を離れて四十年が経とうとしていることに改めて気づき、驚かされました。

目を閉じて思い出す懐かしい故郷の風景は、毎日四キロメートル以上を歩いて通った、野木小学校への通学路の風景です。曲がりくねった道、懐かしい旧校舎、フナやナマズやもくずガニを手づかみで獲った小学校前の小川、ストーブ用の杉葉拾いをした裏山…。

土地改良や区画整理によって、当時の面影がないことを寂しいと感じているのは、きっと私だけではないことでしょう。

しかし、今も変わらないこともあります。

それは大切な人とのつながりです。当時お世話になった

先生方には。社会人になってからもお世話になりました。

また、私たち昭和三十四年第五十回卒業の同窓会では、旧友との懐かしい出会いもありました。しかも、その第四回同窓会は、現在私が勤務しております北潟湖畔荘で開催してくれました。わざわざ故郷から遠いところで開催してくれた心遣いを、たいへん嬉しく感じました。その夜は本当に楽しい一夜となり、翌日もゆったり周辺観光をいたしました。様々な話をしました。楽しい時間は瞬く間に過ぎていきました。今も毎年場所を変えて同窓会を行っています。

共に学び、共に故郷を懐かしむことのできる友は、かけがえのない存在です。ただ残念なのは、早くも亡くなった同級生がいることです。彼らにも会いたかったです。どうか皆様、これからも健康に留意して健やかにお過ごし下さい。私も健康第一で日々を過ごしていきたいと思います。また次の同窓会を楽しみにして…。

会員からの便り

心あたたまる思い出

第64回卒（昭和48年）
兼田　木下 しのぶ
（旧姓 丸井）

私が小学校に通っていた頃、日本は高度経済成長期のまっ只中の時代でした。四年生の時美浜に原子力発電所が出来たので、バスに乗って見学に行きました。すごいなーと圧倒されながら、何よりも記念品として貰ったシャープペンシルに驚き、学校に戻ってから教室でカチカチ動かしながら嬉しくてみんなで騒いだのを覚えています。

同じ年に大阪万博も開催され、行ってきた同級生の子の話を羨ましく聞いたものでした。取り巻く環境や日々の生活が大きく変化していく時代であったのでしょうが、私の心の中に残る野木小での六年間はのんびりとした、心温まる思い出ばかりです。

まず登校下校。集団登校前にスカートをパンツの中にまるめ込んでやったチューブ飛び、雪の凍った塊を学校まで蹴りながら行く競争。帰り道には、忠魂碑の桜（お気に入りの場所）、宮さん（神社）、山、川、稲刈り後の田んぼ、おやつがわりの「すいとう」という草、シロツメクサやれんげの花で作る冠や首飾り、舗装されていないガタガタ道の県道をメノウをみつける為、ずーっと下を向いて歩いたこと・・・家までの道中に店は無かったので買い食いこそ出来ませんでしたが、道草の誘惑はいっぱいでした。

そのほか全校体育、臨海学校、各寺もちまわりの「よい子の集い」、体育大会（スッポン足袋が懐かしい。大人がビールをストローで飲む競争もあったような記憶が・・・）放課後のソフトボールの特訓、ガリ板切って作った卒業文集。

特殊（？）な事として上級生になった時の女子の週番業務がありました。朝早く家を出て、玄関で先生を出迎えカバンを持ち、中履を出し職員室でお茶を入れてお出しするのです。一番緊張したのは校長室に入る時でした。今となっては考えられない事ですが、当時は子供ながらに嬉しくて一生懸命した事を思い出します。まだまだ思い起こせばきりがありません。背も小さく恥ずかしがりやでこれといった特技もなくどんくさかった私ですが、学校が大好きでした。

今年になり同級生十八人のうち一人が他界するという悲しい出来事がありました。時間は限りあるものと痛感し、かけがえのない六年間を一緒に過ごしたみんなの顔が浮かびました。この原稿を書き始めたのをきっかけによく口ずさむようになった校歌と共にいろんな思いが頭の中を駆け巡っています。

時代の流れはありますが、野木の里でのびのびと育まれた野木っ子の瞳の輝きは、今も昔も変わらない、変らないでほしいと願わずにはいられません。

会員からの便り

頑張れ！野木っ子

第75回卒（昭和59年）
脇袋　塚本浩人

野木小学校を卒業し三十年以上が過ぎ、かっこよくいえばシニア世代、俗にいう中年と言われる歳になりました。人生の折り返しを過ぎて、これからの自分の生き方に自問自答しながら、答えは決まって「どうにかなる、とりあえず今日を頑張ろう」と元来のお気楽精神を発揮しながら、平凡な日々を粛々と暮らしております。

昭和58年4月23日　上中町連合小学校 修学旅行記念　於 大阪城

現在、私は小浜にある消防署に勤務しています。通勤ではいつも野木小学校の前を通り野木の子供達の元気な通学姿を目にしており、家の方に見守られて集団で登校する姿は自分達の時代とは少し違うように思います。

私の時代の通学。春の通学では帽子いっぱいに桜の花びらを集め、みんなで空に一斉に投げ桜吹雪だと喜びながら。夏の通学では川に葉っぱで作った船を流し、誰の船が一番になるか競争しながら。秋の通学では夜露に濡れて飛べなくなった赤トンボを帽子の上にのせ、朝日で徐々に翼が乾き帽子からトンボが飛び立つ姿に喜びながら。冬の通学では凍結した田んぼの真ん中を通り学校まで一直線に登校。通学時間も常に遊びの時間だったように思います。

時代が進み子供たちをとりまく環境も昔とは違い、良くも悪くも子供たちの自由な時間（遊ぶ時間）がなくなっているように思います。

いま思うと遊びから学ぶ事は非常に多く、大人になって社会生活を送るにあたり、机で学んだ計算式も大事ですが、自然の中で泥だらけで仲間と遊んで学んだ事こそが大切になってくるような気がします。遊びも勉強、計算式を覚えることも勉強、給食も勉強、生活する全てが勉強だと思い、何にでも貪欲にチャレンジして欲しいと思います。

幸い野木の里の風景だけはさほど変化はなく、この恵まれた環境に育つ野木っ子達が元気に遊ぶ姿は地域の宝であり、地域全体で守って行かなければいけないものです。

泣いて、笑って、写真には写らない多くの思い出をいっぱい作ってください。

頑張れ！野木っ子。

最後になりましたが野木小学校のますますのご発展と、同窓生皆様のご活躍をご祈念いたします。

会員からの便り

ふるさとを未来に繋ぐ

第90回卒（平成11年）
下野木　上野恭輔

野木小学校を卒業してから早十六年が経とうとしています。卒業してからは、野木小学校へ行く機会も少なくなりましたが、今年から毎朝通勤の時に野木小学校の前を通るようになり、その度に懐かしさを感じています。

同窓会報ということで、小学校の思い出を書こうと考えていましたが、なかなか文章にできるほどの出来事が思い浮かばなかったので、少し近況報告も兼ねて、"ふるさと"野木への思いを書いていこうと思います。

私は高校を卒業し大学に通うため、実家を離れて大阪で一人暮らしを始めました。それから今年の初めまで、かれこれ十年近く関西に住んでいましたが、最初の頃は、様々なものがあふれている環境と、人の多さに圧倒されていたのを覚えています。

大学生の頃、関西出身の友

人と地元について話をすることがあれば、決まって言われることは「何もなくて不便そう」、「住みたいとは思わない」というようなことでした。関西の大きな街に比べれば大きな商業施設なども少なく、不便そうと感じられるのはもっともですが、決して大きくない町だからこその「人のつながり」があり、実際に住んでみれば誰もが良いところだと感じられるような町なのに、といつも思っていました。

大学を出て関西で就職し、大阪での生活にも慣れてしまうと、地元へ帰ってくる度に不便だと感じることもあったし、何もなくてつまらないと感じることもありました。それでも、地元に帰ると感じる「人のあたたかさや安心感」は、大阪で十年近く暮らしていてもなかなか感じられないものでした。生まれ故郷ではなくても、長く住んでいれば「第二のふるさと」と呼んだりしますが、私にとっての大阪は住み慣れた街でしかなく、決してふるさとにはなりませんでした。

転機もあり、今年の四月から実家に帰ってきましたが、家の近所を歩いていればたくさんの方に話しかけてもらったり、週末行事に参加すれば懐かしい友人と会って昔話に花を咲かせたりと、子供の頃と変わらないあたたかさがありました。この心の安らぎが、人のあたたかさがこそが、私の中での〝ふるさと〟なんだなと実感しました。

最近は県内どこの市町でも人口減少が問題となり、要因の一つは若者が出ていって帰ってこないことだと言われています。様々な理由はあるにしても、どこかふるさとへの思いが薄れてきている感じがします。

子供が大きくなって帰って来たいと思ってくれるように、この良き〝ふるさと〟野木を未来へ繋いで行くために、私達が次世代に伝えていかなければならない時代が来たのかなと思います。昔私たちが教えてもらったように。

新成人からの便り

夢の実現

第98回卒（平成19年）
上野木　中川愛理

私は現在、医師になることを目指し、大学で医学を学んでいます。平日は一日中講義と実習で忙しいですが、充実した毎日を送っています。

一年次は基礎医学を学んでいましたが、二年生になり解剖実習も終え、少しずつ臨床的内容に入っているところです。授業では私の想像をはるかに超える人体の構造の緻密性や神秘性、そしてその素晴らしさを知り、日々感動しています。さらに日進月歩する医療技術を学び、人間の英知にも驚くばかりです。高校までとは違う、大学での専門的な勉強は、新鮮で興味深く取り組めています。

今年七月、私は二十歳になりました。振り返ってみれば、野木小学校の六年間は毎日が楽しく、今でも全員仲が良い級友とのたくさんの思い出は私の原点かもしれません。五年生の時、私は医師になって患者さんの病気を治したいという夢を抱きました。当時の福井新聞に小学生が将来の夢を語る小さなコーナーがありました。私は幼いながらに「大きくなったらお医者さんになりたい。そして痛くない注射を発明したい。」と書いた記憶が鮮明に残っています。そしてその夢が今までの私の原動力となり、今少しずつ実現に近づいています。私はその夢を実現するためには、いつも夢を見据えながら、目の前の細かい目標を一つずつクリアしていくことが重要であり、それが一番の近道であると考えています。

将来は、女性医師として患者さんの心に寄り添い、患部だけでなく患者さんの心と身体全体を診ることができ、誠実で優しく、患者さんやご家族の方に信頼される医師になりたいと思っています。

今、日本では少子高齢化が急速に進み、故郷若狭でも医師不足は深刻な問題だと聞いています。誰もが安心して生活するためには医療の充実は不可欠です。私も夢を実現して、原点である故郷に少しでも貢献することができたらと思っています。

学校生活を短い言葉で書きました　一年生

体育大会

★たいいく大かい　みんなでがんばったから　一いだったよ
おく本　なる

三世代交流

★むかしあそび　おもしろかったよ　あやとりお手玉上手にできたよ
し水　そ天

★水でっぽう　むずかしかったけど　たのしかったよ
竹村　ともき

★むかしあそび　水でっぽうでかみコップたおしは　たのしいな
田中　しゅう三

生活科・おもちゃランド

★かりんぐみさん　きてくれてありがとう　うれしかったよ
うえの　こたろう

★おもちゃランドおもしろかったよ　かりんぐみさんがたのしんでくれてうれしかったよ
うえの　るり

★かりんぐみのみんな　けん玉をするのが　うまかったよ
大はし　みらい

★おもちゃランド　たのしかったよ　かりんぐみさん
ヨーヨーすぐ上手になったからうれしかったよ
しろま　一き

★かりんぐみさん　ヨーヨーうまかったね　たのしかったよ
まえ田　みさき

★おもちゃランド　たのしかったよ　かりんぐみさん
きてくれてうれしかったよ　ヨーヨーはむずかしいのに
すぐにうまくなったよ
まるい　たく人

算数の学習

★ひきざんたしざん　むずかしかったよ　でもできたよ
うえの　みやび

★ひきざんのけいさんがむずかしかったけど　がんばってできて
うれしかったよ
田中　こう大

学校生活の中で

★ドッジボール　みんなとあそぶと　たのしいな
つか本　たくみ

「学校生活川柳」～楽しかった学校行事～　二年生

収穫祭

★大すきな　カレーを作って　さい高だ
植野　聖永

三世代交流

★竹うまで　バックができたよ　うれしいな
尾崎　結芽歩

★竹うまに　はじめてのれたよ　うれしいな　山本　澪奈
★こま回し　きれいに回って　うれしいな　新田　千乃
★お手玉が　いっぱいできたよ　うれしいな　平田　夕奈
★手まきずし　十の形に　作ったよ　竹村　凌一
★まきずしに　ウインナ入れて　おいしいね　田中　悠輝

生活科

★草木ぞめ　きれいな色に　そまったよ　寺坂　実莉
★ピザ作り　チーズをのせて　うますぎる　辻本　光希

生活の中で

★ドッジでね　いっぱい当てて　がんばった　奥本　翔大
★当てちゃった　あい手チームの　強い人　清水　悠花

「人権標語」～みんな仲良し～　三年生

★世界中　いじめせんそう　ゼロにしよう　東　詩織
★いじめなし　やさしい気持ち　心をつなぐ　大橋　花蓮
★きょう力し合う　やさしい気持ち　受け取るよ　岡本　咲良
★みんながもつ　やさしい心　大すきだ　勝見　瑠奈
★だいじょうぶ　はげまし合おう　みんなでね　髙本　竜佑
★いじめない　みんなやさしい　いい心　滝　優一郎

★つらいこと　がまんしないで　伝えてね　田中　美羽
★わたしはね　あなたが大すき　受けとめて　田中　美優
★友だち一人より　みんないっしょの方が　おもしろい　塚本　哉蔵
★ほめ言葉　やさしい気持ち　心をつなぐ　橋本　葵
★安心するな　うれしいな　やさしい言葉　東山　哲士

「人権標語」～やさしいきもちになろうよ～　四年生

★思いきり　ごめんと言って　仲直り　伊藤　舜
★友達は　何でも話せる　すてきだね　植野　優波
★友達は　やさしい言葉で　つなぎ合う　北村　侑希乃
★いつまでも　かけがえのない　友達だ　桒原　汰知
★ほめられた　ふわふわ言葉　うれしいな　桒原　里佳
★ふわふわの　言葉をたくさん　ありがとう　清水　永愛
★おたがいに　こまったときは　助け合おう　清水　麻央
★けんかした　あやまりたいよ　ごめんねと　竹村　啓汰
★「大丈夫」　はげまし合って　乗りこえよう　内藤　優奈
★あいさつは　人と人とを　むすぶもの　荷川取　可梨
★みんなでね　協力したら　できるよね　平田　陸

「俳句」～秋の一句～　五年生

★陸上の　練習終わり　夕日顔　井畑　結人
★紅葉だ　野木の山々　カメレオン　勝見　星良
★ふく風に　波立ちゆれる　稲の海　勝見　侑奈
★秋の海　夕日がのびて　赤い橋　倉谷　心菜
★パラパラと　本めくり読む　秋の風　清水　花純
★青い柿　夕日に染まり　旬の色　清水　優作
★そよ風に　すすきがゆれて　フラダンス　城間　美羽
★秋の夜に　虫のお話　ゆかいだな　竹村　藍里
★夕暮れを　知らせるメロディ　虫の声　竹村　侑己
★涼しき日　夕日に向かう　赤とんぼ　新田　麻湖
★満月に　うさぎいるのか　いないのか　橋本　神志

「独楽吟」～卒業＆中学入学～　六年生

★楽しみは　小学卒業　春休み
　釣りを始めて　大物釣る時　東　奨叡
★楽しみは　中学校で　部活決め
　楽しみながら　あせ流す時　居関　音心
★楽しみは　部活がんばり　弁当だ！
　何入れてあるか　ふた開ける時　大橋　愛杜
★楽しみは　将来の夢　少しずつ
　近づきながら　母めざす時　北村　知可
★楽しみは　制服替わり　自転車で
　桜まい散る　門入る時　小山　侑香
★楽しみは　始業式の時　親友が
　同じクラスで　笑顔になる時　田中　陵雅
★楽しみは　初の部活で　特訓し
　警察官の　夢近づく時　竹村　友杜
★楽しみは　今とは違う　クラスにて
　心おどらせ　学び合う時　塚本　朔弥
★楽しみは　部活の卓球　スタートし
　練習重ね　強くなる時　内藤　海斗
★楽しみは　一期一会の　友達と
　楽しみながら　時過ごす時　荷川取　桃果
★楽しみは　中学始まり　部活行き
　一つになって　音合わす時　畑中　翔
★楽しみは　ピカピカ光る　制服と
　自転車乗って　家を出る時　東山　結香
★楽しみは　卓球部入り　練習で
　スマッシュ打って　技決める時　山本　琉斗

今、学校では…

本年度、上中地域の小・中学校が文部科学省「土曜授業推進事業」のモデル指定を受け、若狭町の未来を担う子どもたちの育成を目指して「ふるさと教育」「学力・体力向上」をテーマに取り組みました。以下、写真で紹介します。

1年 伝統遊びにチャレンジ

1年 里山の話とどんぐりアート

2年 一言神社見学

3年 Cネットふくい訪問

3年 フラワー交流

2年 収穫祭

4年 親子でグランドゴルフ

4年 内藤先生の地域学習

5年 地域に伝わる話の読み聞かせ

6年 熊川宿見学

6年 親子でソフトバレー

5年 河合先生の環境学習

編集後記

本年度の同窓会理事会で次のような意見が多く出されました。

寄稿をお願いする人がなかなか見つからない。お願いしても以前書いたことがあるという方が大勢おられる。また、原稿量が多く、負担に感じる人も多いようだ。

地区外の会員の方へ送付しても多くの会報が住所不在で返ってきてしまう。

編集委員会を開いてもほとんどが学校の事務局任せとなってしまう。など…

そのため、今回より少し内容を簡略化し、次回より地区外の方への送付も希望者のみとさせていただくことになりました。

この会報を楽しみに待たれている方も多いと思いますので簡略化できる部分は簡略化し、息の長い会報作りを目指したいと思っています。

会員の皆様のご理解をお願いするとともに、益々のご健康とご繁栄をお祈り申し上げます。